



青森県基本計画

「選ばれる青森」への挑戦

支え合い、共に生きる

# 人口減少・高齢化時代における地域 コミュニティの現況調査アンケートの 集計結果について(上北地域版・概要)

令和3年11月

上北地域県民局地域連携部

## <調査の概要>

○実施主体：青森県企画政策部地域活力振興課（受託者：ハートエンジニアオフィス(株)）、上北地域県民局地域連携部

○背景と目的：

人口減少や少子高齢化が進む中、地域づくり（地域住民による課題解決に向けた活動）は様々な分野で重要なテーマとなっています。そのため、アンケートにより町内会・自治会・行政区等（以下、「町内会」という。）の活動状況や運営課題等を調査し、町内会の皆様や市町村等と共有し、今後の取組の糸口を見つけたり、行政機関の地域活動支援を考える際の参考資料として役立てていきます。

○実施期間：令和3年6月16日～7月15日

○上北地域の調査対象数と回答状況 481組織／816組織（回答率58.9%）

	十和田市	三沢市	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町	六ヶ所村	おいらせ町	無記名	合計
A. 組織(調査対象)数	292	109	23	125	50	29	105	27	56		816
B. 回答数	158	59	13	60	41	22	58	20	43	7	481
C. 回答率(B/A)	54.1%	54.1%	56.5%	48.0%	82.0%	75.9%	55.2%	74.1%	76.8%		58.9%

○調査結果の公表等

- ①全県版 … 県HPに掲載 (<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikaku/chikatsu/community.html>)
- ②上北地域版 … 県HPに掲載 ([https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ka-renkei/R3\\_kamikita\\_community\\_research.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ka-renkei/R3_kamikita_community_research.html))

○上北地域版の問い合わせ先：上北地域県民局地域連携部 地域支援チーム(0176-22-8194)

## <集計結果の概要>

### 1. 町内会の基礎情報

組織数と規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶令和3年5月1日時点で、上北管内の9市町村には「816」の町内会があります。</li> <li>▶全体の約5割の組織は、「50世帯以下」で構成されています。</li> </ul>
所在エリア	▶全体の約5割は「農業地帯」、約4割は「住宅密集地」にあります。(残りの1割は「商業地帯、漁業地帯、その他」)
組織の設立時期	▶全体の約5割の組織は、50年以上前(1971年以前)に設立されています。中には、「1940年代以前」に設立された組織も存在しています。一方で、「いつできたのかわからない」という組織が、約3割存在しています。
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶全体の約8割の組織で、「地域に10年以上暮らしている」、「60代以上」の「男性」が、代表(会長)を務めています。</li> <li>▶全体の約6割の組織では、任期が2年以内となっています。</li> </ul>
役員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶「60代」、「70代」、「50代」の順に多く、「50代から70代」の住民が約8割を占めています。</li> <li>▶性別の割合は、「男性」が約8割、「女性」が約2割となっています。</li> </ul>
住民の加入状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶全体の約7割で組織加入率が「80%以上」となっています。</li> <li>▶全体の約5割の組織では、10年前(2011年)と比較すると、加入者の「減少傾向」を感じています。</li> <li>▶一方で、「増加傾向」を感じている組織も全体の約2割存在しています。</li> </ul>
部会・委員会の数	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶全体の約6割の組織で、「1から3つ」の部会・委員会を設置して活動しています。</li> <li>▶また、設置している「部会・委員会」は、「役員会」(約7割)、「総務部(事務局)」(約2割)、「女性部(婦人会)」(約2割)、「防犯防災部」(約2割)等です。</li> </ul>
活動の規模	▶全体の約4割の組織は、年間「50万円以下」の活動費(支出)で運営しています。

## <集計結果の概要>

### 2. 運営方法や運営における課題認識

#### 会費の回収・管理方法

- ▶ 全体の約9割の組織は、町内会費を徴収して活動(運営)しています。
- ▶ 集金方法は、全体の約7割の組織で、「班長が会員宅に個別訪問して現金で回収する」方法をとっています。
- ▶ 「現金での回収に時間がかかっている」(約2割)や、「現金管理の負担」(約1割)等を感じている組織もあります。

#### 情報共有・伝達の方法

- ▶ 全体の約4~5割の組織で、会員間の情報共有に「紙媒体の回覧版」や「会議等の場」を活用しています。
- ▶ 全体の約3割の組織で、会員以外の地域住民に活動を伝えて活動しています。
- ▶ 「会員間」、「会員以外」ともに情報伝達の方法に、インターネットやSNS (twitter、facebook、LINE等) 等を活用している組織は、全体の1割未満です。
- ▶ 「回覧物の滞留(約2割)」や「回覧の効果」(約2割)、「回覧板の準備」(約1割)等への問題意識があります。

#### 活動の決め方

- ▶ 「会員の意見を聞き決めている」(約4割)、「会員以外の地域住民の意見も聞いて決めている」(約3割)、「毎年、前年と同じ取組を継続している」(約2割)の順に回答が多くありました。
- ▶ 「会員以外の地域住民の意見も聞いて決めている組織」の約6割で、「総会等の会議に出席してもらう」方法で意見を集めています。

### 3. 地域にある問題等への認識

- ▶ 「地域住民の一体感や連帯意識の低下」(約4割)、「空き家の増加」(約4割)、「ごみの不法投棄の増加」(約4割)の順に回答が多くありました。
- ▶ 問題への対応や町内会運営のために必要なこととして、「新規会員や役員のなり手の確保」(約6割)、「役員の負担の軽減」(約3割)、「町内会活動のための情報収集」(約2割)の順に回答が多くありました。

## <集計結果の概要>

### 4. 地域の若い世代の関わりへの認識

- ▶ 全体の約9割の組織で、「若い世代の地域や町内会への関わりは必要である」と考えています。
- ▶ しかしながら、約6割の組織で、若い世代の参加や関わりは希薄であると感じているようです。
- ▶ また、その関わりが希薄な理由として「町内会に無関心」(約7割)、「地域に無関心」(約6割)、「負担増を心配している」(約5割)の順に回答が多くありました。

### 5. 将来の展望や今後、取り組んでみたいこと等

#### 取り組んでみたいこと等

- ▶ 全体の約3割の組織で、「課題解決」や「活性化」に向けて取り組んでみたいことがあると考えています。
- ▶ また、全体の約6割の組織で、町内会運営に役立つ勉強の機会があれば参加を希望しています。

#### 20年後の展望

- ▶ 全体の約6割の組織で、「活動の低迷・存続が難しくなっていく」と感じています。

#### 町内会の必要性

- ▶ 全体の約8割の組織で、「今後も町内会の活動は必要」であると考えています。

#### 将来の組織のありたい姿

- ▶ 「高齢者の安全・安心な暮らしを応援できる組織」(約7割)、「会員の暮らしに役立つ活動ができる組織」(約6割)、「子ども達の安全・安心な暮らしを応援できる組織」(約5割)の順に回答が多くありました。

## <集計結果の概要>

### 6. わたしの町内会の「良いところ」や「自慢」等

※一部の回答を抜粋し、市町村別に記載しています。

十和田市	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶毎月1回会員へ情報伝達のため手作りの「町内会報」を発行している。今年度で17年目を迎えた。(継続は力なり)</li> <li>▶当町内会は純農村地域で小さな集落であるが、農業後継者も多く若者が積極的に参加して町内会活動を盛り上げてくれている。今後、若者の意見、要望を取り入れながら活性化させ明るく住んで良かった活動を展開していきたい。</li> </ul>
三沢市	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶少数ではあるが役員の方々が町内会の運営に骨を折っていただいている。今までのような町内会の運営は今後できなくなると考えています。理由は人材不足と若い世代の方たち、子育て、その他の事で町内会への参加は非常に難しい。今までがこうだったからこれからも努力し継続しようではなく、現状を時代の流れに立脚して考え、我が町内会は行政と協働し地域社会の繁栄に寄与していきたい。</li> </ul>
七戸町	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶一人暮らし高齢者への冬場の除雪作業・町内会全体の草刈り(年に2回実施)</li> <li>▶会員数は年々少なくなっていますがまとまっている所はすばらしいことではないかと思えます。</li> </ul>
野辺地町	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶私的には今ある現状(地域の)を理解し、次世代への道標を作りたい。災害等には防災士としても対応して地域住民の安全、安心に取り組みたい。</li> </ul>
六戸町	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶団地内の路肩の草刈を班毎に作業してきれいな環境づくりに励んでいる。秋には年に一回若い町内会会員(20名程度)がボランティアで空き地の草刈をしている。</li> </ul>
横浜町	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶私ども町内会では、5月から11月まで、「いきいき教室」という65歳以上の集会を5回開催しています。健康体操、お茶会、ゲーム大会などみなさんで楽しく過ごしています。</li> <li>▶若い世代がいろいろなアイデアを持ちよって考える。イベントなどたのしい町内会になりつつある。</li> </ul>
東北町	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶郷土芸能である〇〇〇保存会等、1940年以前からの行事があるので、これをなんとか若い世代に引継ぎたいと思っている。</li> </ul>
六ヶ所村	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶特に除雪の問題ですが、自治会で除雪機を所有して(役員だけの使用)役場と連携して対応しています。</li> </ul>
おいらせ町	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶①役員が積極的に奉仕の精神をもって献身的に活動している。②健全で建設的な意見交換ができている。③地域の環境整備、防犯・防災等安全安心に貢献している。④町役場職員と良好な関係を維持している。</li> <li>▶当町のモデル地区として頑張っていきたい。</li> </ul>